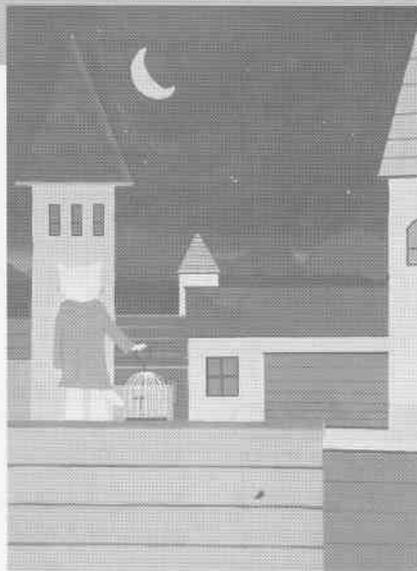




道央3年「大きなメロンだ」

大きくおいしそうなおメロンを収穫する喜びがよく表現されています。人とメロンの構成が美しい。クレヨンと絵の具で水のはじきの技法も効果的です。



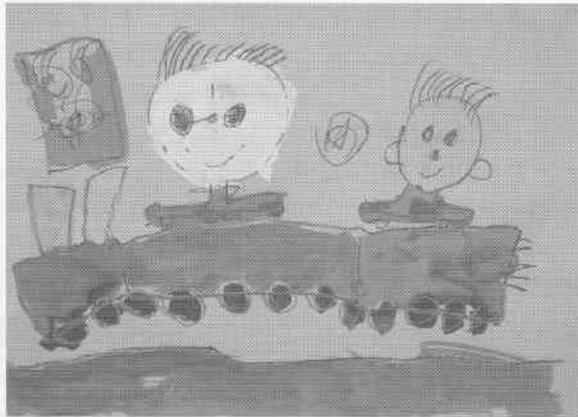
道東北 中1「ネコが見えるモノ」

直線とむらなく塗られた面の重なりで、遠近感と静かな夜の感じが出ています。



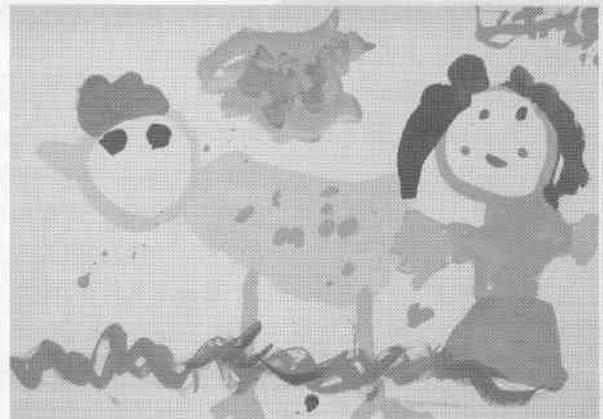
道央 中3「自画像」

単なる自画像ではなく、楽しい充実した中学校生活の思い出アルバムに手がきで配した構成がすばらしい。



札幌 4歳「お遊戯会」

お遊戯会で楽しく演技している様子を、のびのびと表しています。顔の色や乗り物の色をよく考えて使い分けられているとてもよい絵です。

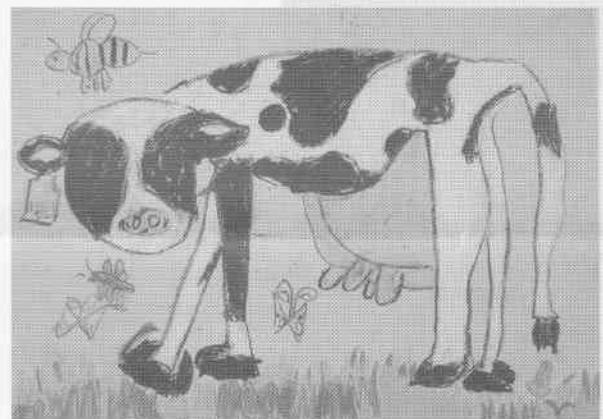


道央5歳 「ニワトリ」

広場で元気に遊ぶニワトリさんがグイグイと大きな筆遣いで描かれています。

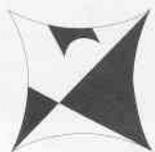
もくじ

- ・ 教育美術展奨励賞作品 1
- ・ 北海道造形教育連盟委員長挨拶 ... 2
- ・ 造形教育の未来を志向して 3
- ・ 空知大会案内 5
- ・ 教育美術展特集 6~7
- ・ 各連盟近況だより 8



道南1年 「牛」

大きなおっぱいの牛がのんびりと草を食べています。ちょうちや蜜蜂もやってきました。明るくのどかな感じがよく出ています。



北海道
造形教育
連盟報

No.116 2003.7.18発行
発行 北海道造形教育連盟

委員長 藤井 正治

事務局 札幌市立八軒小学校 富田 泰
〒063-0844

札幌市西区八軒4条西1丁目
TEL642-0155・FAX642-4946



研究を柱に確かな歩みを ～平成15年度連盟活動の方針～

北海道造形教育連盟

委員長 藤井正治

はじめに

昨年に引き続き委員長として連盟の仕事をさせていただくことになりました。役員の方々のお力と会員の皆様のご協力を得ながら、全力で取り組んでまいります。

平成15年度の活動を始めるに当たり、連盟の基盤強化と研究の活性化及びその交流を深めることが、大きな課題であると感じております。

連盟の活動の中核は、研究であり、実践とその交流が活動を支えています。

戦後の混乱の中で、我々の先輩は、いち早く造形教育の大切さを思い、研究の場と内容の充実を目指して連盟結成に取り組まれました。造形教育のあるべき姿や育成すべき資質・能力についての研究を労を惜しまず取り組んで来られました。その努力が、今、連盟の研究の支えとなっています。そのような研究への熱意をどう引き継ぎ、どう発展させて行くか、今一度考えてみたいと思います。

研究を軸に新たな取り組みを

今年度地区委員総会で研究部から提案がありました「基礎研究」への新たな取り組みは、その様な思いへの一つの試みであります。北海道を視野に、各地区の協力をつなぎ合わせ、実践の蓄積から見えてくる実態や課題をもとに、造形教育の今をとらえようという願いがあります。

また、連盟が主催する北海道教育美術展の開催も、研究・研修の大切な場としてとらえ、研究部を中心とした審査基準の学習会などと合わせて、全道の会員の方々の目を通した審査となるよう計画を進めています。マニュアル化された指導から生まれた作品も見られることから、連盟の考えや主張を広げていくためにも、各地区サークルからは、一人でも多くの方が審査に参加し指導や作品の在り方について学び合いたいと思います。また、作品著作権の明記により、出品作品の全道的活用や利用の拡大も考え、日常実践とつながった事業としての実施を考えております。

そして、何と言っても「全道造形教育研究大会」の開催が、研究とその交流の場として最大のものとなります。滝川市で開催されます空知大会が、盛大にしかも盛會に開催できるか否かは、私たち会員の参加体制にかかっているといってもいいかと思えます。大会成功のために、全道の結集を期待して止みません。

空知大会では、新学習指導要領完全実施から1年が過ぎて、図工・美術科はどのように展開してきたのか、そして、今後の課題は何なのかについての検討もなされるかと思えます。大会事務局では、学級全員の作品を持参していただきたいとの呼び掛けをしていますので、作品を通して本音で語り合う研究会にするためにも、互いに声を掛け合って参加したいものと思えます。

全道造形教育研究大会の開催地につきましては、各地区が積極的に話し合いを持たれ、開催に前向きに取り組んでいただいております。平成12年度の函館大会から、5ブロック持ち回り制にして3年が経過しましたが、来年の旭川大会の次は、函館市が体制作りに取り組んでいたが、平成17年度道南ブロック開催が地区委員総会において函館市に決定いたしました。この函館市から2順目に入り、平成18年度は、札幌大会となり、その後の平成19年度道東ブロック、平成20年度の道央ブロック、平成21年度道北ブロックもそれぞれに検討されております。

この、各地区の熱意を大切に、連盟の活動を充実させて行きたいと思えます。

各地区の実践の交流のためにも、連盟ホームページの充実が課題となっております。本年度の重点の一つとして取り組んでまいりますので、ご意見をお寄せください。

研究と実践を柱に53年の歴史を刻んでまいりました連盟は、これからも、造形教育の発展を願い、創造性と表現力に満ちた人間育成に向けて取り組んでまいります。

15年度 役員・本部事務局員紹介

委員長 藤井正治 (札幌市立上野幌東小長)
副委員長 及川輝夫 (旭川市立東鷹栖中長)
副委員長 橋本紀勝 (函館市立上湯川小長)
副委員長 佐藤正幸 (美唄市立東小長)
副委員長 山口長伸 (別海町立別海中央小長)
副委員長 江川佳徳 (札幌市立前田北中長)
監 査 土井勝典 (江別市立江別第三小長)

監 査 森戸春樹 (帯広市立豊成小長)
事務局長 富田 泰 (札幌市立八軒小長)
会計部長 益村 豊 (札幌市立創成小頭)
庶務部長 安木尚博 (札幌市立幌南小)
研究部長 川島正夫 (札幌市立幌南小)
事業部長 稲實 順 (札幌市立創成小)



造形教育の未来を志向して

北海道造形教育連盟 本部研究部 研究部長
札幌市立幌南小学校 川島 正夫

「心豊かに未来に生きる造形教育」

1. 研究主題「心豊かに未来に生きる造形教育」

(1) 体験重視の図工・美術教育の必要性

先日、アメリカによるイラン攻撃という悲しい出来事がありました。さらに、現代は一つ選択を間違えれば「全ての生物の滅亡を招くような危機的状況にある」といっても過言ではありません。この滅亡とは、核爆発や環境汚染、エイズ等による生命の死だけではなくありません。連日新聞等で報道されている社会事件に見られるような、自己を失い、他人に帰依したり、野蛮性に堕ちたりするような心の死の問題もはらんでいます。そこには、「愛されているという意識、生まれてきてよかったという実感」の欠如が関係しているように思われます。まさに、「自分がかげがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感でき、存在感と自己実現の喜び」が必要な時代なのです。

図工・美術教育とは、「手を動かす」という最も自然な方法で、自分自身を信じること・自然の自分を表すことを体験させる教科です。造形を通して、子供一人一人の価値を教師や友達から認められ、自分自身と向き合うことで「より人間的な在り方や表現」を求める教科といえると思います。まさに、かつてH. リードが述べたように、人間的な調和と発展をめざす教科であり、現代において、必要不可欠な教科であることは言うまでもないことです。

また、長く続く抜け道のない経済不況と世紀末から続く社会の閉塞感を打破し、新たな希望とへと導くには、物づくりへの自信回復と創造性を駆使した独自の高品質なブランドが日本製品に満ちる必要があります。そのためには、美しい日本の自然が育んだ造形性におけるアイデンティティが必要になってくると考えます。教育現場では、材料体験をはじめとした徹底的な体験重視の教育が重要とらなくてはなりません

(2) 生きるそして未来へ

図工・美術教育は、「ものとの触れ合い」「人と人の触れ合い」という試行錯誤を重ね「自分と向き合う」ことから、自分の未来を切り開いていける人間を育てていく教科ということができると思います。

北海道造形教育連盟は、2001年から研究主題を「心豊かに未来に生きる造形教育」と設定し研究を重ねてきました。全国大会（札幌会場）、帯広・十勝大会で考察してきた、「人間づくり」という観点を土台にしながらもさらに研究を深めていく必要があると考えます。

2. 研究副主題「一人一人が造形的表現活動の喜びと自己創造感を実感するために」

(1) 学びの実感がある授業

現代は、「その学習の中でどういう能力を育てるのか」「それをやったらどういう能力がついたか」について、保護者や社会全体に説明していかなばならない時代であると考えます。もちろん、今まで我々が積み上げてきた実践や理論はその答えになると思いますが、改めて短い言葉で、明快で、しかも具体性をもった説明できることが求められると思います。だからと言って、学級全員が一つの正解のような、教師の主観のみに合致した指導過多の美をめざすものでもありません。力の育成を目指すあまりに、大人の感性を押し付け、子供の主体性を奪う活動は、図工・美術の目指すところではないことは明白です。

そこで研究部は、「わたし」を中心に置きながら、真剣でまじめな日本人特有の「誠実さ」、一人一人固有の表現の中に表れる「多様さ」を土台とした造形観をもとに、<どの子も必ず通る題材の価値をより明確に、より意図的に位置づけた学びの実感がある授業を検証していきたいと考えています。能力とは教師がつけるものではありません。子供が伸ばすものです。ですから、学びの実感こそが大切である

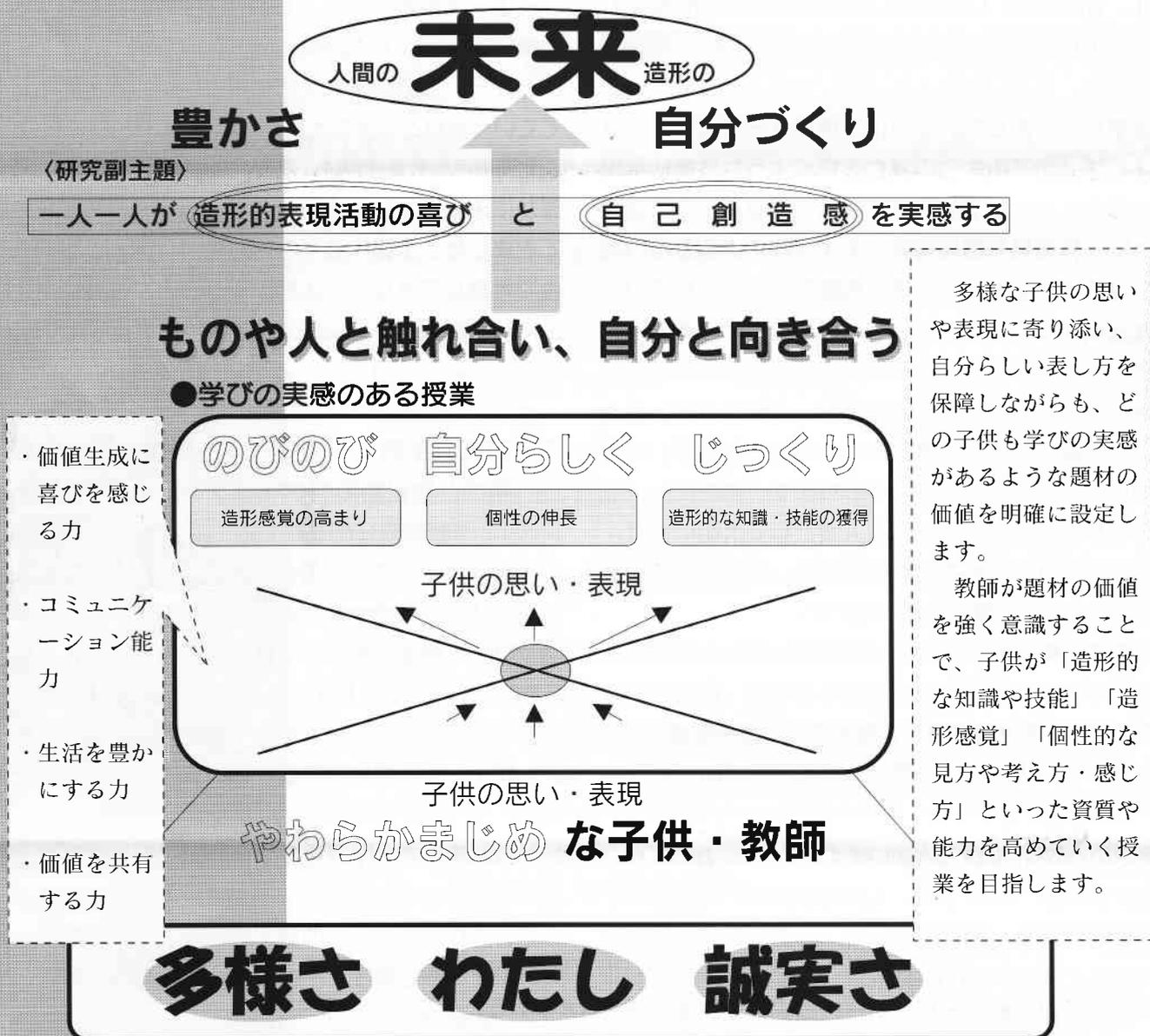
と考えます。このような授業実践の積み重ねが、先の疑問に対するこれからの連盟の回答につながっていくと考えています。

(2) 子供に、造形的表現活動の喜びと自己創造感の実感を！

「学びの実感がある授業」をもとにした、「ものや人との触れ合い」「自分と向き合う」活動は、研

究副主題として設定した「造形的表現活動の喜び」と「自己創造感（新しい自分を創り出せた）」を生むものと考えます。今年度は、この2つの窓口から、研究主題である「心豊かに未来に生きる造形教育」に迫っていきたいと考えています。

「やわらかまじめ」な図工・美術教師こそが造形教育の未来を創っていくのではないのでしょうか！



多様な子供の思いや表現に寄り添い、自分らしい表し方を保障しながらも、どの子供も学びの実感があるような題材の価値を明確に設定します。

教師が題材の価値を強く意識することで、子供が「造形的な知識や技能」「造形感覚」「個性的な見方や考え方・感じ方」といった資質や能力を高めていく授業を目指します。

本年度の活動

- 北海道造形教育連盟研究主題の検討（平成17年提案予定）をしていきます。
- 北海道教育美術展審査基準、審査方法の再検討をしていきます。
- 各地区サークルとの連携（授業研への案内、授業協力等）を考えています。
- 北海道の今の子供の現状を知る基礎研究の取組を開始します。
- 8月16日（土）に研究部主催による講演会を企画しています。講師は北海道教育大学教授である村瀬千樫先生です。

第53回全道造形教育大会 空知大会



滝川市立東小学校
滝川市文京町2丁目1-1
TEL. 0125-23-1591

ご挨拶

新世紀に入り本格的な教育改革が進められる中、今年は空知の地で第53回全道造形教育研究大会を開催いたします。

私達は、自然の恵み豊かな空知野の子ども達と共に「人やものとふれあい、自分らしい表現方法を見つけ、主体的な造形活動を通じて、つくる喜びを味わうことのできる造形教育」をめざしていきたくと思っています。空知の開催は、15年ぶり、4回目となります。空知の美術教育に携わる私達は、北海道に造形教育の歴史とその実践・結果の重みをしっかりと受け止めて、「つくる喜びを実感できる造形教育」を合言葉にその準備を進めてまいりました。

本大会では、全道からご参集される皆様と共に、子ども達の素朴で豊かな感性から生まれた作品を話題にしながら、人間として生きる力を育む造形教育のあり方を討議する中で模索できたら幸いです。

7月末の滝川は、さわやかな青空にグライダーが舞い、石狩川と空知川の流れとともに緑豊かな水田や畑が広がっています。この風景を見渡せる東小学校を会場にして研究討議をし合い、美しい夕暮れをみながら松尾ジンギスカンでビールを飲みながら、全道各地の実践や新しい21世紀の造形教育のあり方について語り合いたいと思います。

全道からたくさんの皆様のご参加をお待ちしています。

全道造形教育研究大会空知大会 運営委員長 佐藤正幸

空知大会研究テーマ 「つくる喜びを実感できる造形教育」

本来、造形活動は理屈抜きに楽しい事であるはずで、自分たちの生活の中からテーマを見つけ出し、自分なりの表現方法を選択し、納得がいくまで制作活動に取り組み、達成感を味わう、そうした造形活動の過程の中にこそ図工・美術として学んでゆく大きな価値があるはずで、そうした造形活動を支援する上での「多様性」こそ重要であると考えます。人と人とのコミュニケーションを図る場合、その都度便利な方法をとれば良い。しかし人と人とが直接「接する」機会が失われると、対象の存在意識は大きく変化することが考えられます。ものや人と直接接するということは自然なことであるけれど、今の子どもからは直接失われつつあることを認識しなければならないでしょう。

今の子どもにとって必要なことは、五感を通して見たり聞いたり判断したりする機会であると考えます。以上の現状分析に基づき、現在の「図工・美術」に求められている題材（教材）の選定について大会研究テーマを以下の3つのキーワードにまとめてみました。

3つのキーワード

ふれあう

素材や人とのふれあいを通じてつくるよろこびを感じる。

さぐる

素材や表現法を探ることを通じてつくるよろこびを感じる。

つくりだす

造形活動を通じて作品や人間関係をつくるよろこびを感じる。

第40回 全空知子どもの作品を語る会

「子ども作品を語る会」は車座になって子どもの作品を囲み、互いの悩みを語り、良さを発見し、それらを明日の実績に生かす座談会です。ベテランも新卒も気軽な話し合いの中で指導法や教材観、図工・美術の教科性、さらには子どもの生活像まで語り合うという「自主的な研究実践の積み重ね」の場として位置づけられました。ピックアップされた数点の作品ではなく、指導したクラス全員の作品を持ちよることにより、それらの作品を見たり、お互いの意見交流の中から何かをつかみ取り、現場での実践に生かす。それが私たちがこれまで続けてきた「作品を語る会」なのです。

大会日程

8:30~	9:00~	10:00~	10:10~	10:40~	12:10~	13:10~	16:00~	17:00~
受付	公開授業	移動 休憩	開 会 行 事	受付	昼 食 休 憩	分 科 会 ・ 子 ど も の 作 品 を 語 る 会	移 動	レ セ プ シ ョ ン ・ 閉 会 式

北海道教育美術展審査について

北海道造形教育連盟研究部

研究部長 川島正夫

北海道教育美術展も今回で記念すべき30回を迎えます。過去29回の中には【学級全員が一つの正解のような、教師の主観のみに合致した指導過多の美】【力の育成を目指すあまりに、大人の感性を押し付け、子供の主体性を奪う活動】が垣間見られる作品が見られたことも事実です。私たちは、前回までの美術展において「望ましい作品とは?」「あるべき造形教育の姿とは?」を作品の審査を通して全道（HPを含めると全国）に発信してきたという自負があります。

そこで、30回の記念展を迎えるにあたって、私たち研究部は一昨年度から審査基準のあり方について見直しをしてきました。29回展までの研究部としての反省をもとに、只今新しい審査の基準や審査方法について新しい提案をすべくその準備をしています。

(1) 29回展までの反省から

- ・審査基準を客観性のあるものに近づけるための努力の必要性
～奨励賞を選定する場において、研究部で提案した審査基準と各審査員考える「望ましい絵」との揺れ
～<入選作品を見合う会>における「なぜこの作品が奨励賞候補としてあがってこないのか」という疑問
～<審査基準の説明会>が形骸化しているのではないか・・・等の振り返りの視点が見えてきました。

(2) 30回展に向けて

「望ましい絵」に関する造形教育者の共通理解を図るために

- ・より審査の根本になりうる審査基準の作成
～只今、過去の奨励賞の作品分析、顧問の先生方への「よい絵」についてのアンケート等を検討しながら作成に向けて準備を進めています。
- ・ジャンル（写生画、行為から描きたいものをふくらませていく題材等）の違いを実際の審査でどう考慮していくか?
- ・審査会当日ではなく、11月頃に十分に時間をとって審査基準をもとに望ましい絵のあり方について共通理解を図る場を設ける。
- ・絵の見方や望ましい指導のあり方についての研修会を開催する。（できるだけ、全道の先生方にも呼びかけようと考えています。）
- ・別冊プリントやHP等を通して、「審査後記」等を発信していく

など、今までの審査から見えてきた課題に向けて動き出しをしています。

本美術展は、「教育」美術展ですので、【普段の教育活動の中で生まれた作品である】 【子供の発達段階を考慮したものである】という点が前提となります。その上で、本美術展で奨励作品や入選作品を選んでいくということは、結果的に教育活動の中で生まれる「望ましい絵」の規準をつくることとなります。ですから、子供が自らの資質や能力を遺憾なく発揮できるような造形表現活動を生むことにつながっていくような美術展の審査のあり方を提案していきたいと考えています。

第30回 北海道 教育美術展

掲載作品は第29回奨励賞作品です。

応募要項概要 ○後日、要項発送となりますが、準備の都合を
考え、概要をいち早くお知らせいたします。

対象

・保育園・幼稚園・小学校・中学校に在籍する児童・生徒。

応募規定

- ・ 絵画、版画、デザイン等の作品とし、学校（園）を窓口として応募する。
- ・ 大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は、4つ切り大の台紙に貼ること。（中学校については、8つ切り大の台紙も可）
- ・ 1人1点の出品とする。（前年度の作品はご遠慮下さい）
- ・ 作品の裏に応募票を貼る。（応募票をコピーして使用）
- ・ 応募総数を学年別出品一覧表にまとめて添付する。
- ・ 作品は学年ごとに重ね、一つにまとめて、おもてに「教育美術展作品」と記載する。

締切

・ 平成15年12月15日(月)まで
期日厳守のこと

送付先

〒004-0032 札幌市厚別区上野幌2条4丁目5-1
札幌市立上野幌東小学校 北海道教育美術展係宛



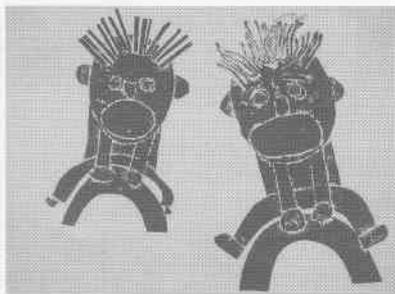
道南5年「漁港」

ゆったりと漁船が休んでいる漁港の風景をしっかりと観察しています。船や水の様子が生き生きと描かれたよい作品になりました。



道南 中3「不思議な図形と立体のある構図」

誠実な気持ちが画面から伝わってくる作品です。アンモナイトのような無彩色の背景と色彩鮮やかな多様な立体の対比がとても見事です。



道南2年「タイヤとび」

「よいしょ」とタイヤを跳び越せた時の気持ちが形に表れています。かみの毛に力が入っています。

道東北 3年

「さんまの水あげ」

船と岸を上下に分けた構図がよい。さんまがいっぱい。おごぼれをねらうカモメもいっぱい。細かくていねいに描いた元気な絵です。



絵画、デザイン等で種々の材料での表現が見られますが、展示、保管上次の規定をお守りください。

- ・ 積み重ねてもつぶれない、かさばらない
- ・ 接着が強固ではがれない
- ・ 画鋏で展示が可能な重量

審査

- ・ 全作品を地区別（札幌、道央、道南、道東北）にし、校種別、学年別に分けて審査する。
- ・ 奨励賞100点、入選700点を選ぶ。
- ・ 審査には北海道造形教育連盟委員の先生方があたる。

入選発表

- ・ 直接学校あてにはがきで通知するので、該当児童にお知らせ下さい。（12/27投函予定）また、奨励賞受賞者は、1月上旬北海道新聞紙上に発表する。

展示

- ・ 平成16年1月8日（木）～14日（水）
- 会場 札幌駅前 さっぽろ東急百貨店 10階
- ・ 奨励賞・入選の作品を展示する。

表彰式

- ・ 奨励賞受賞者は、平成16年1月11日（日）午後1時より、札幌駅前さっぽろ東急百貨店 10階 モナリザスクールで表彰する。（受付は午後12時30分より）

その他

- ・ 奨励賞の作品は、造形教育連盟事務局まで申し込みただければ貸出しをする。（貸出し料、送料等は負担していただきます。）
- ・ 奨励賞作品は返却いたしません（著作権は造形教育連盟に帰属いたします。）
- ・ 入選作品、選外作品は、1月末日まで送付先審査会場校にて保管しておりますので、必要な方は、各園・学校ごとにおひきとり下さい。
- ・ なお、それ以降は返却いたしません。事務局では返送手続はいたしません。

問い合わせ先 札幌市立月寒小学校 池田 武彦
TEL 011-851-9343 FAX 011-851-2358

地区サークル近況だより

留萌管内児童生徒版画集第1集発刊！

留萌地方美術教育研究会 事務局長（留萌市立緑丘小学校）

斉藤友昭

当会で、過去22年間途切れる事なく継続してきた管内児童生徒版画集の発刊がある。今年4月に発刊した版画集は版を重ねること第11集となった。隔年で発刊しているため22年の歴史を誇っている。第1号は手刷りでB4版の大きさのものであったが、その後印刷所に依頼し、作品のよさをしっかりと伝えるようにしている。さらに、第11集では、念願のカラー作品をカラー印刷することを実現し、年々内容を充実させている。悩みは、予算である。販売した金額のみの収入で事業を行っているので売れる数が少ないと赤字になってしまうことである。版画集をご希望の方は、留美研事務所まで連絡を！

札幌 函館 渡島 胆振 上川 旭川

石狩

空知

留萌

後志



室蘭

苫小牧

檜山

根室 浜之川 釧路 帯広 十勝

50周年記念誌「彩」が発刊される

函館市美術教育研究会 横岸澤 英二

昭和24年美術教育に情熱を持っておられた先生方が集まり、函館市美術教育研究会が発足しました。これまで歴史とロマン溢れる街函館から、第4回（1954年）の全道造形教育研究大会をはじめ6回の全道大会を開催してきました。大会を迎えるまでの苦労やエピソードが語られ、50年という歴史の中で受け継がれてきた美術教育への思いが伝わってきます。

今年度は会員46名でスタートしました。児童生徒写生画展（10月）・児童生徒美術展（2月）・授業研究（11月）・実践集録（3月）と計画を進めているところです。

また、平成17年度は全道造形研の開催地として、気持ちも新たに準備が始まったところです。



室蘭造形教育研究会の活動

室蘭造形教育研究会 北村 哲朗

新しい組織を立ち上げてから早いもので3年が経ちました。11名でスタートした会員も、僅かながら増え14名となりました。少人数のため、独自の活動はなかなかできない状況にありますが、市教研や胆振造形教育研究会の活動への参加協力をしています。

市教研の活動では、8月23日に裸婦デッサン会、10月17日に授業研究会、11月初旬には、市内小中ろう学校造形展と教職員美術展が予定されています。中でも教職員美術展は、今年で48回目を迎える伝統あるものです。毎年、勤務の合間の貴重な時間を使って生み出される多くの力作が寄せられます。

胆振造形では、毎年1月に宿泊研修会を開催しています。裸婦デッサン会、作品を語る会などの研修を通して、管内の先生方との交流を深めています。

先輩の方々が築かれたこうした伝統の上に、これからも地道な研修を積み重ねていきたいと考えています。

ワッカ原生花園は花盛り

オホーツク造形教育連盟委員長 阿部 賢一

オホーツクの地もようやく夏本番を迎え、常呂町のワッカ原生花園のエゾスカシユリ・エゾフーロー・はまなすの花々は、今が花盛りで見ごろです。特に今年は、晴天が続くエゾスカシユリが見事な花を咲かせ、訪れる人々を魅了しています。

さて、オホーツク造形教育連盟の当面の活動は、5日に留辺蘂町木工芸館「カムリン」にて、会員を対象とした「木を使ったオモチャ作り」の実技研修を行う予定です。

また、2学期には「オホーツク造形教育研究大会」を実施する他、市町村サークル等での実技研修を派遣する等の活動計画を立てています。

あとがき

第116号をお届け致しました。お忙しい中、原稿をお寄せくださいました先生方に厚くお礼申し上げます。全道各地でご活躍されております各サークルの近況を誌面で交流しあえる場として「各サークルだより」を位置づけました。お便りもまだまだたくさん届けられておりますが、締め切りと誌面の都合で一部となりました。次号をお楽しみにお待ち下さい。

「研究あつての造形連盟」の合い言葉のもと、今夏の滴川でまたお会いしましょう。

造形連盟広報部（中山龍男、三井 哲、山室ゆかり、阿部時彦、東 尚典、加藤正幸、土井善範）